

立命館經濟學

第四卷 第二号

昭和三十年六月

内 容

論 説

- J. S. ミルに於けるの財政思想(-)……………箕浦格良 1
証券価値論への前提……………住ノ江佐一郎 30
高島炭坑に見る明治初期の親方制度の実態……………大山敷太郎 44
——「わが国鉱業労働における封建性と親方制度」補論その二——
四四年手稿断片「疎外された労働」におけるマルクスの
哲学思想（下の中）……………梯 明秀 88

史 料

- 大量通信交通と新聞の匿名主義（上）……………淡川康一 116

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館 経済学

第三卷・第七号

阿部教授還暦祝賀論集

熊野灘沿岸漁村における「本役〔本家株〕・半役

〔分家株〕制」と漁業共同経営 大山敷太郎

住民税論 藤谷謙二

世界労連の結成と分裂 平田隆夫

新企業担保制度に関する若干問題 井上巖次郎

日本長期信用銀行 武藤守一

——日本経済従属化軍事化の設備金融中枢として——

フオード五〇年 木村喜一郎

発生主義の会計における

実現主義の問題 津ノ国長四郎

四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想（中） 梯明秀

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学

第四卷・第一号

論説

経営学における労務の考察 祭原光太郎

ダウ理論にたいする二つの批判 住ノ江佐一郎

わが国鉱業における親方制度の解体過程

——わが国鉱業労働における封建制と親方制度——

補論その一——

大山敷太郎

四四年手稿断片「疎外された労働」における

マルクスの哲学思想（下の上）

資料

工業史の一断片（下） 淡川康一

発行所 立命館大学人文科学研究所